

# 下横倉城跡



下横倉城は戦国時代に築城され、宇都宮城の北の砦として、宇都宮国綱（22代城主）の家臣、横倉氏が居城したと伝えられている。

城は山城で、標高200mの山頂に位置し、周囲を崖及び急傾斜面の地形によって堅固な守りとしている。

地上からの比高は約42mである。城の規模は東西約150m、南北約100m

で、面積は1・5haほどである。南北にU字形の2つの曲輪くるわが連なり、山頂が平坦な本丸、その南にやや傾斜地の二の丸がある。曲輪の周囲は土塁と堀が築かれ、保存状態は良く、当時の面影を残している。城の南方には、「城橋」と呼ばれる橋や「入城」と呼ばれる屋号、西方には「家老口」という小字名が残っているほか、ふもとの磯野家は古くは「横倉」を名乗っていたと言われている。

戦国乱世の永正6年（1509）、連歌師柴屋軒宗長さいおくけんそうちやうは日光からの帰路、横倉で連歌興行に列席している。



富屋地区まちづくり連絡協議会 令和2年建立